

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270500622		
法人名	有限会社 ころ		
事業所名	グループホーム ころ		
所在地	青森県五所川原市大字桜田字鴻ノ巣431-1		
自己評価作成日	平成24年6月10日	評価結果市町村受理日	平成24年9月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号
訪問調査日	平成24年7月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月誕生会では、入居者が希望する場所へ出かけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの周りは広々と広がる田畑で、自然環境に恵まれた場所にある。 職員は優しさ、笑顔、仲良さをキーワードに、利用者の希望をできる限り実現できるよう、日々一生懸命サービス提供に取り組んでいる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者が地域の一員として、積極的に関わりが持てるよう、支援に努めています。理念は、職員全体で話し合いの上、決めています。また、近隣の小学校の運動会・学習発表会等への参加・交流を図っています。	代表者が親の介護サービス利用をきっかけに、仲良く暮らせる施設を目指してホームを開設しており、地域密着型サービスの事業所としての役割を理解している。また、当初の意を受け、職員間でホーム独自の理念を作成しており、状況の変化に応じて、現状に即したものに作り変えている。職員は理念の意味を理解し、業務中でも理念を振り返りながら、実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を開催した際、情報交換や気軽に立ち寄っていただけるよう、声かけをしています。また、近隣の方より認知症のことや施設入所の相談があり、対応しています。	小中学校の体験学習の受け入れや行事等に参加している。ホームには近隣からの入居が多く、地域住民とは顔見知りであり、声かけや挨拶等が日頃から気軽に交わされている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方の認知症の相談や見学等には、その都度対応しています。外部の人の受け入れの際には、入居者のプライバシーに配慮しています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しています。報告書は職員全体が目を通して、今後のケアに反映できるよう話し合っています。	運営推進会議は市の介護福祉課の職員や駐在所巡査、家族代表、管理者、ユニットリーダーがメンバーとなり、2ヶ月に1回開催している。会議では利用者の普段の様子を報告したり、写真を見せたりしながら積極的に意見を引き出すように努めており、駐在所巡査からの情報提供の他、家族が市の担当職員へ相談を行っている。また、自己及び外部評価結果の報告や目標達成計画についても説明し、意見を聞くように努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	外部評価の結果を提出しています。運営推進会議の際に事業報告を行い、相談したり、アドバイスを受けています。	利用者に何かあった時には電話で相談する等、気軽にやりとりができるような協力関係を築いており、課題解決に向けて連携して取り組んでいる。また、運営推進会議には、毎回、市の介護福祉課職員が参加しており、その機会に相談をしたり、アドバイスを受けている他、自己評価及び外部評価結果等を提出している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を行い、日々のケアを提供しています。	身体拘束に関するマニュアルを作成している他、毎月勉強会を開き、身体拘束の内容や利用者が受ける心身の苦痛等について話し合い、理解を深めている。また、利用者の見守りを行い、外出傾向を察知した場合には付き添いをして、利用者が外出できるように支援しており、身体拘束をしない方針の下、日々のケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、高齢者虐待となる行為を学び、日々のケアの中で行っていないか等職員全体で話あっています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度についての勉強会・研修に参加しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、入居者や家族等に事業所の理念やケアの方針、取り組み等について説明しており、入居者や家族等の疑問・不安について十分な話し合いを行っています。また、退居先で安心した生活を送れるよう、情報提供を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常時、気軽に相談できる雰囲気づくりに努め、入居者の言動を職員間で報告し合い、安心した生活を送れるよう話し合っております。家族へは、面会時や電話連絡にて報告し、気軽に意見・苦情等を出してもらえるように働きかけています。	苦情箱はホームの居室部分の廊下に設置して、意見を出しやすいようにしており、利用者の普段の行動や言動からも意見や不満等の把握に努めている。入居の際には、重要事項説明書に明記している苦情受付窓口について必ず説明をしている他、面会時や電話連絡時等、家族がいつでも気軽に相談できるような雰囲気作りを心がけ、積極的に意見を引き出せるように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	こころ会議の他、随時意見や提案を聞く機会を設けています。	毎月開催される「こころ会議」では、職員がホームの運営等について意見を述べることで、「誕生会は施設の外に出て祝うこと」等、職員の提案が実行されている。また、勤務体制は職員の希望を取り入れるよう、配慮している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、健康診断を実施し、健康管理に努めています。また、保有資格に配慮した職員配置や、向上心を持っていただけるように考えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成しており、研修受講後は報告を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の際、交流の機会を設けて情報交換を行っています。また、他施設を訪問する等して取り組んでいます。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者や家族等の相談、不安について聞き出せるよう、雰囲気づくりに努め、希望に沿った対応ができるように話し合いを行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者や家族等の相談、不安について聞きだせるよう、雰囲気づくりに努め、希望に沿った対応ができるように話し合いを行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に十分な説明と話し合いを行い、本人と家族の希望に沿えるような対応に努め、今必要としている支援を見極めています。場合によっては関係機関との連携を図り、他のサービス機関に移行する支援を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとり得意分野が異なるため、その人にあったものを生活の中で探し、本人の負担にならない程度に手伝ってもらえるよう努めています。職員と入居者は、家事や軽作業を一緒にを行いながらコミュニケーションをとっており、共に楽しく生活できるように取り組んでいます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしぶりや健康面等について随時報告すると共に、ケアの内容を説明しながら、家族の思いや意見を聞き出し、家族の協力も必要であること等を伝え、入居者を共に支え合うような関係作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人等の訪問がある他、また面会に来ていただけるように声かけを行い、雰囲気づくりに努めています。	入居時のアセスメントの他、随時家族等からの情報収集に努めており、馴染みの人や場との関係の継続を支援している。知人等との手紙のやりとりや、自宅を見に行ったり、結婚式への参加に付き添う等、利用者の希望に応じて支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症のレベルの違いから入居者同士のトラブルがあり、職員間での情報交換を密にしてトラブルを回避し、入居者同士が良い関係を保てるように話し合っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談に応じることを話しています。入院した場合には早期に見舞いに伺ったり、家族と連絡をとっており、関係する医療・福祉の関係者とも情報交換を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者が思いや希望を日常の会話から遠慮なく話していただけるように声かけを行い、実現に向けて取り組んでいます。家族等からも情報収集を行い、一人ひとりに合わせた起床・就寝時間や、個人の生活スタイルを尊重した支援を行っています。	アセスメントでセンター方式を活用し、より詳しく利用者の思いや希望等を把握できるように努めている。また、利用者の意向の把握が難しい時には家族等からも情報収集しており、利用者一人ひとりの生活スタイルを尊重し、希望を実現できるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を主に利用し、家族や本人等から生活歴等の把握に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のリズムや体調の変化、個別に有する力等の把握に努めており、職員同士で情報を共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で困っていることがないか、さりげなく聞き出せるように声がけをしています。入居者や家族の要望・意見等を聞き、入居者本位の計画作成に取り組んでいます。また、職員間で課題に対する目標を明確にし、対応の結果を報告し合っています。	介護計画作成時は、担当者が中心となって状況等の把握をし、できる限り利用者の意見を聞くように努めている。また、変化のない介護計画にならないよう、周囲の気づきや意見を反映させており、ニュアンスを大事にして津軽弁で記載することもあり、個別性を重視した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の小さな変化に対して迅速に対応できるよう、個別の記録も事細かく記入しています。また、全ての職員が状況を把握し、同一に対応できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	冠婚葬祭等、必要に応じて送迎の支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して地域の民生委員、駐在所と連携を図ることで、情報交換や事故等の際に協力いただけるようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回または必要に応じて、本人及び家族が希望するかかりつけ医に受診できるように支援しており、その都度結果の報告と今後の対応について話し合いをしています。	これまでの受療状況を把握しており、行き慣れた医療機関での受診を継続できるように支援している。また、医療機関との情報交換や話し合いが必要な時には家族に同席してもらっている他、電話等で随時受診結果について報告しており、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師が日常の健康管理を行っています。また、看護師が不在の日でも同一の対応ができるように、介護職員との情報交換も密にしながら支援をしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や連携を確保しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	随時、医療機関を受診し、今後の対応について家族と話し合いを行っています。	看取りに関する指針に基づき、ホームとして対応ができる体制を整えており、家族へは十分に説明をしている。終末期の対応については、主治医から余命宣告を受けた段階で話し合い、意思統一を図りながら支援を行う体制である。また、ホームでは看取りの経験があり、職員は不安なことや困難なことについて、常勤の看護師へ相談できる体制となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	秋に応急処置、救急救命の研修を予定しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っており、1回は夜間を想定して訓練しています。特にホームの両隣に対しては、協力が得られるように働きかけています。	年2回、その内1回は夜間を想定して避難訓練を実施しており、特にホーム両隣の住民には協力が得られるよう、働きかけている。また、避難路にはスロープを設け、通路も確保している他、災害時の備蓄についてはホーム敷地内のプレハブ小屋に水やストーブ等を準備しており、使用後の補充についても検討中である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねるような言葉がけや対応をしないように心がけ、支援をしています。入居者の個人情報等の取り扱いについては十分に注意し、業務を行っています。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように努めており、職員は理念に立ち返って日々のケアに取り組んでいる。また、職員の対応で気になることがあった時は、お互いに注意して確認し合うようにしており、会議でも取り上げて、より良いケアを行えるように心がけている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりとコミュニケーションを密に図ることで、本人の思いや希望を理解し、自己決定ができるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日やレク等の予定は立てているが、無理に参加を勧めたり、しつこく声がけしたりせず、個々のペースを大切にしながら取り組んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服は入居者に選んでいただき、衣服や整容の乱れにはさりげなく対応しています。また、月に一度美容師の来訪があり、本人や家族の希望にて行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に苦手なものがあれば個別に変更し、入居者の食欲が出るように促しています。出来ることは本人の負担にならない程度に手伝っていただいております。食べこぼし等については、本人が気にしないよう、さりげなく支援しています。また、職員も一緒に食事をとっています。	食事の準備や後片付け等、利用者のできる範囲で手伝ってもらい、職員も一緒に食事を取りながら、さりげない支援に努めており、食事時間が楽しいものとなるように取り組んでいる。また、利用者一人ひとりの好みに配慮した献立を工夫し、苦手なものには別メニューを用意して、柔軟に対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量の記録をして、一人ひとりの状態・習慣等を把握しており、1日に必要な量の確保に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者への声がけや一部介助にて、口腔内の清潔保持に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	訴え時や定時誘導で排泄の支援を行っています。また、本人が失禁等を気にしすぎないようにさりげなく交換する等、プライバシーに配慮しています。	一人ひとりの排泄パターンを記録・把握しており、時間をみて誘導しながら、排泄の自立を試みている。失禁時には周囲に気づかれないう、トイレに誘導し、十分に羞恥心に配慮した対応をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便の確認・記録をして、便秘の改善に向けて状況等を見直しています。また、医療機関へ報告し、下剤等の調整を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回の入浴の他、本人の希望に合わせて対応しています。入浴時に状況を観察し、職員間で一人ひとりの入浴習慣や好みを把握しており、入浴を楽しめるように支援しています。	アセスメントで入浴習慣を確認し、入居後も希望を随時確認しながら対応をしている。入浴は週2回となっているが、必要に応じて別ユニットでも入浴できるように配慮している。また、利用者の羞恥心や負担感にも配慮して、その都度意見を聞きながら支援をしており、職員は浴室の中と脱衣所で介助に入り、適切な支援ができるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、個々にレクリエーションや食事準備等、活動量を無理のない程度に行っており、適度な疲労感が持てるように支援しています。また、眠剤の変更や不眠についての話し合い等を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れや誤薬等がないよう職員間での声がけや名前の再確認を行っています。薬の変更時には記録をしていると共に、全職員に伝わるまで申し送りで報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式の活用と、日々の生活を観察し、把握に努めています。また、一人ひとりが得意とすること、楽しみとすること等を把握し、充実した生活が送れるように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	随時、入居者の希望に沿って外出先を決め、対応しています。また、その際、本人が不便さを感じず、楽しめるよう対応に努めています。	ホームとしては、できる限り外出の機会が持てるように努力しており、事業計画による外出の他、本人の希望に応じて、日常的に外出を楽しめるよう支援している。アセスメント等により利用者の行きたい場所を把握しており、身体状況に合わせてリフト車での外出も可能である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物等の場面で、入居者に支払いを行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の音量・明るさには常に配慮して、不快のないように努めています。また、入居者からも気軽に相談してもらえよう、声がけをしています。季節毎にホームの飾りつけを入居者と一緒に創作しています。	共用の空間は利用者にとって快適であるよう、温・湿度や室内の明るさ、テレビの音量や職員の立てる物音等、環境に配慮をしている。また、生活感や季節感を楽しめるよう、利用者と一緒に制作した作品を飾ったり、玄関には虫送りの藁人形を飾る等、工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が一人になりたい時、気のあった者同士で過ごしたい時等、思い思いに過ごせる場所があります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりに合った居室づくりをするために、使い慣れたもの、好みの物を家族の協力を得ながら設置しており、入居者が心地よく過ごせるように工夫しています。	利用者や家族と相談しながら、使い慣れた物や好みの物を持参して、本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている。持ち込みの少ない人には、職員と一緒に作成した物を使用したり、その人に合った居室作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の混乱や行動の失敗の原因を探り、自立した生活を送れるように話し合っています。また、入居者の不安・混乱等のない環境づくりに努めています。居室の目印は一人ひとり違うものになっています。		